


<p>松山観光ボランティアガイドの会</p>  <p>おいでんか通信</p>	<p>事務局 松山市大街道 3 丁目 2-46</p> <p>TEL 089-935-5711</p> <p>ホームページ http://Matsuyama-guide</p>	<p>号外第 29 号 2020.3.15</p>
		<p>発行責任者 大西修史 編集 広報事業部 部長 都合憲一</p>

石手寺に第 2 の洞窟が完成（情報提供：森亮一さん）

石手寺本陣の横から入ったところに、第二洞窟が完成しました。

本堂の横から入り太子堂の裏に抜ける「マントラ洞」とは大きく異なっており、中は真っ暗です。人間がちょうど一人通れる広さで、両手で壁を触りながら通ります。若干のアップダウン（段差）もあり足の裏で床をさぐりながら、171 cmの身長で 2〜3 度頭で天井を確認しながら進みます。

洞窟を抜けると座禅の間が 3 部屋あり、さらに進むと「皆一緒大仏」の横に出ます。

一度、試してみてくださいはどうか。

通路の入口



皆一緒大仏
第二洞窟入口
入場寄付 100 円 為子供食堂



左から、
「明王室」「菩薩室」「如来室」



〈メモ〉伊佐爾波神社にてガイド中。
「この神社の狛犬は一風変わっていて、雌雄があります。」と自慢げに説明したところ、「安芸の宮島の狛犬にもありますよ」とのこと。そのとおりでした。（本殿に向かって、右側が雄、左側が雌）



マスクの着用、手洗いの励行を!!



タオルの自動販売機

道後「空の散歩道」入口にある自動販売機でタオルが販売されていました。

500円と割と高額。一緒に行ったお客さんは「300円だったら買うのにな〜」とのことでした。

現役車両オールスターズ

運行開始

昭和26年 (1951)～

昭和54年 (1979)～

平成13年 (2001)～
復元

平成14年 (2002)～

平成29年 (2017)～

モハ50形

伊予鉄道オリジナルの車両。前面・側面の番号で製造年がわかる。なつかしいツートンカラーの車両は少なくなったが、まだ市内を走っている

モハ2000形

かつて京都市市内を走行していた京都市電から譲渡された車両。写真は昭和40年(1965)頃製造の車両

回転場が見どころ

先頭の車両を人力で回転させた後、客車と連結させる。松山市駅・古可駅・道後温泉駅でしか見られない珍しい風景。制服姿の乗務員の活躍ぶりにも注目!

坊っちゃん列車

明治21年製と明治41年製の機関車を復元。ディーゼルエンジンを採用し環境にも配慮

モハ2100形

国産型超低床車両。窓が広く、音も静か

モハ5000形

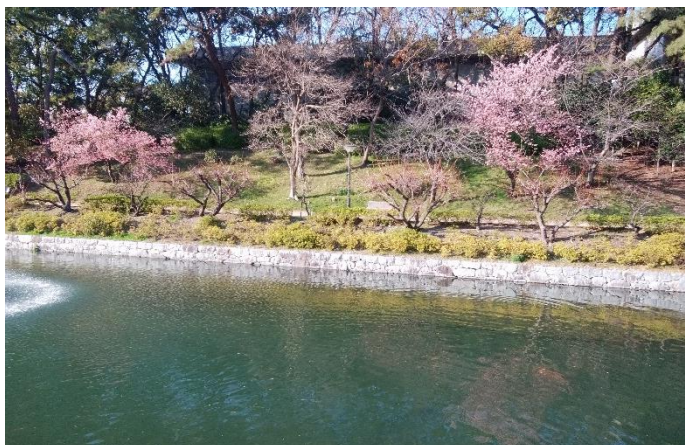
未来型流線形デザインの低床バリアフリー型車両。2100形に比べ定員も増え、通路幅も広め

暖暖松山 vol. 15 より

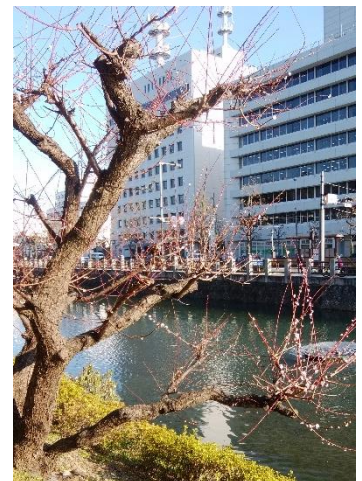
最新のモハ 5000 形は 2 両で 4 億円（愛媛新聞 2017.9.22）

お堀の桜と梅

「ツバキカンザクラ」が散り始めていましたが、傍で梅の花が咲いて



ていました。隣で写真を撮っていたおばさんも「毎年、写真を撮りに来ているが、こんなことは初めてだ」と驚いていました。(3月6日)



マスクの着用、手洗いの励行を!!